

アラビア語¹

松尾 愛

現代標準アラビア語 (以下, MSA) の動詞は, 伝統的アラビア語学では2種類のタイプがあるとされる. Maalej (2009: 624) によれば, 1つは *lāzim* [lit. ‘not crossing over to an object’] で自動詞に相当するものである. もう1つは *muta‘addin* [lit. ‘crossing over to an object’] で他動詞に相当するもので, 主語のほか, 最大3つの名詞類を項としてとることができる.

本稿の理解に役立つ, MSA の動詞の派生形について, 表 1 に示す.

表 1: Derived Verbal and Participle Forms of Trilateral Roots(F ʕ L)

Form	Main meaning	Perfective	Perfective	Imperfective	Active / Passive Participle	
I	action	CVCVC	<i>FaʕaL-a</i>	<i>ya-FʕiL-u</i>	<i>FaʕʕiL,</i> <i>FaʕL, FaʕaL,</i> <i>FaʕiL, FaʕʕiL</i>	<i>maFʕuuL</i>
	(temporary) state or activity		<i>FaʕaL-a</i>	<i>ya-FʕuL-u</i>		
	permanent trait		<i>FaʕiL-a</i>	<i>ya-FʕaL-u</i>		
			<i>FaʕuL-a</i>	<i>ya-FʕuL-u</i>		
II	causative	CaCCaC	<i>FaʕʕaL-a</i>	<i>yu-FaʕʕiL-u</i>	<i>muFaʕʕiL</i>	<i>muFaʕʕaL</i>
III	associative	CaaCaC	<i>FaaʕaL-a</i>	<i>yu-FaaʕiL-u</i>	<i>muFaaʕiL</i>	<i>muFaaʕaL</i>
IV	causative	?aCCVC	<i>?aFʕaL-a</i>	<i>yu-FʕiL-u</i>	<i>muFʕiL</i>	<i>muFʕaL</i>
V	reflexive-causative: deliberate	taCaCCaC	<i>taFaʕʕaL-a</i>	<i>yataFaʕʕaL-u</i>	<i>mutaFaʕʕiL</i>	<i>mutaFaʕʕaL</i>
VI	reciprocal/ associative	raCaaCaC	<i>taFaaʕaL-a</i>	<i>yataFaaʕaL-u</i>	<i>mutaFaaʕiL</i>	<i>mutaFaaʕaL</i>
VII	reflexive-passive	inCaCaC	<i>inFaʕaL-a</i>	<i>yanFaʕiL-u</i>	<i>munFaʕiL</i>	<i>[munFaʕaL]²</i>
VIII	reflexive/middle	iCtaCaC	<i>iFtaʕaL-a</i>	<i>yaFtaʕiL-u</i>	<i>muFtaʕiL</i>	<i>muFtaʕaL</i>
IX	inchoative: become (a color or a defect)	iCCaCC	<i>iFʕaLL-a</i>	<i>yaFʕaLL-u</i>	<i>muFʕaLL</i>	----

¹ 本稿の執筆にあたり, エジプト出身のセイフ・ラナ氏 (東京外国語大学大学院博士前期課程) に甚大なご協力を頂いた。記して感謝申し上げる。同氏は, 日本語に堪能で, 日本語でのやりとりを通じてデータを提供して頂いた。なお, 本稿におけるいかなる誤りも筆者に帰するものである。

² 第 VII 形の passive participle (受動分詞) は, McCarus(2008: 255) では, 「分詞としては用いないが, munxafad (低地) のような, 場所を表す名詞としては用いられる」述べられている。

X	causative-middle: requestative	istaCCaC	<i>istaFʕaL-a</i>	<i>yastaFʕiL-u</i>	<i>mustaFʕiL</i>	<i>mustaFʕaL</i>
---	-----------------------------------	----------	-------------------	--------------------	------------------	------------------

(McCarus 2008: 252 および Bubeník 2008: 553 を基に筆者作成)

アンケートに従って、MSA の言語データを以下に示す。なお、本稿における例文などはすべて稿末に掲げる規則に従った転写法により表記する。

(1) 【直接変化・影響】「殺す・壊す・温める」

(1a) qatala ð-ðubaabat-a.
殺す: PFV.3.M.SG DEF-ハエ-ACC
「彼はそのハエを殺した。」

(1b) kasara s^ʕ-s^ʕnduuq-a.
壊す: PFV.3.M.SG DEF-箱-ACC
「彼はその箱を壊した。」

(1c) saxxana l-hisaaʔ-a.
温める: IL.PFV.3.M.SG DEF-スープ-ACC
「彼はそのスープを温めた。」

(1d) haawala ʔan yaqtula ð-ðubaabat-a.
試みる: III.PFV.3.M.SG that 殺す: SBJV.3.M.SG DEF-ハエ-ACC
walaakin lam yastafʕ.
しかし NEG できる: X.JUSS.3.M.SG
「彼はそのハエを殺そうとしたができなかった。」

(1) 「殺す」「壊す」「温める」いずれの語彙も目的語をとる他動詞が用いられている。とくに、(1c)は saxana「温かい」という自動詞が派生した、アラビア語学では伝統的に第 II 形と呼称する、saxxana (語根の 2 番目の子音 C₂ を重複させる形) という他動詞が用いられている。(1d) については、影響が完全に及ばないことを含意するような動詞 1 語での表現はできない。「殺したが死ななかつた」のような表現もまたできない。

(2) 【直接影響・無変化】「蹴る・ぶつかる (わざと/故意に)」

(2a) rakala l-kurat-a.
蹴る: PFV.3.M.SG DEF-ボール-ACC
「彼はそのボールを蹴った。」

(2b) rakala-haa fii qadam-a-haa.
 蹴る: PFV.3.M.SG-彼女.ACC in 足-ACC-彼女の.GEN
 「彼は彼女の足を蹴った。」

(2c) sʕadama r-radʕul-a (ʕamd-an).
 ぶつかる: PFV.3.M.SG DEF-男-ACC (意図-ACC)
 「彼はその男にわざとぶつかった。」

(2d) isʕadama bi-r- radʕul-i.
 ぶつかる: VIII.PFV.3.M.SG against DEF-男-GEN
 「彼はその男にうっかりぶつかった。」

(2) (2a)(2b) は同じ動詞 rakala 「蹴る」を用いて表す。インフォーマントによると、(2c) は第 I 形の他動詞で、「故意に」という対格の ʕamd-an という表現を付加しなくても、ぶつかる「意志」が感じられるという。(2d) は第 I 形を派生させた第 VIII 形の動詞を用いることで「意志」のない「偶然」の出来事を表しているという。全てのアラビア語の第 VIII 形にそのような「意志の有無」が関係しているわけではないことにここで留意されたい。

(3) 【知覚 2A vs. 2B】「見える・見る・聞こえる・聞く」

(3a) raʔaitu l-ʔaʕxaasʕ-a.
 見る: PFV.1.SG DEF-person.PL-ACC
 「私はその人たちをみた (見えた).」

(3b) raʔaitu l-bait-a.
 見る: PFV.1.SG DEF-家-acc
 「私はその家をみた (家が見えた).」

(3c) naðʕara ʔila l-bait-i
 見る: PFV.3.M.SG to DEF-家-GEN
 「彼は (見ようとして) その家を見た。」

(3d) ʕaahada t-tlifiziyyuun-a.
 見る: PFV.3.M.SG DEF-テレビ-ACC
 「彼はテレビを (じっと) みた。」

(3d) taraaʔaa li-i ʔanna fii masʕlahat-i-ka.
 見える: VI.PFV.3.M.SG for-私 that in 利益-GEN-貴方の
 ʔistikmaal-u d-diraasat-i.
 継続-NOM DEF-研究-GEN
 「私には、研究をつづけることが貴方のためだと見える。」

(3e) samiʕtu sʕuraax-a r-radʕul-i.
 聞こえる:PFV.1.SG 叫び DEF-男-GEN
 「私はその男が叫ぶのを聞いた。」

(3f) samiʕtu r-radʕul-a yasʕuxu.
 聞こえる:PFV.1.SG DEF-男-ACC 叫ぶ:IPFV.3.M.SG
 「私はその男が叫ぶのを聞いた。」

(3g) istamaʕa ʔilaa l-muusiiqaa.
 聞く:PFV.3.M.SG to DEF-音楽.ACC
 「私は音楽を聴いた。」

(3) (3a) (3b) は同じ動詞 raʔaa 「見る (見える)」を用いている。自然に目に入るニュアンスで用いられている。(3c) の動詞 naðʕara ʔilaa 「…を見る」は意志をもって見ようとして「見る」ことを表す。前置詞 ʔilaa ‘to…」を伴う必要がある。(3d) の動詞 jaahada は直接目的語をとることができる動詞で、「じっと見る」意味で用いられる。(3e) の動詞 taraaʔaa は、(3a) (3b) の動詞 raʔaa を第 VI 形に派生させた形である。第 VI 形の動詞は、相互態を表すことが多いが、インフォーマントによると、この場合は、「目には見えないものが見える」場合に用いられるという。(3e) の動詞 samiʕa は、「自然と聞こえてくる」場合に用いる。一方、(3e) の istamaʕa は、samiʕa を第 VIII 形に派生させた動詞で、「意志をもって聞こうとして聞く」場合に用いる。istamaʕa は前置詞 ʔilaa ‘to…」を伴う必要がある。

(4) 【(知覚 2A) 発見・獲得・生産など】「見つける・作る」

(4a) wadʕada l-miftaah-a l-mafquud-a.
 見つける:PFV.3.M.SG DEF-鍵-ACC DEF-失くした.PPT-ACC
 「彼は失くした鍵をみつけた。」

(4b) ʕaθara ʕala l-miftaah-i l-mafquud-i.
 見つける:PFV.3.M.SG on DEF-鍵-GEN DEF-失くした.PPT-GEN
 「彼は失くした鍵をみつけた。」

(4c) sʕanaʕa maktab-an.
 作る:PFV.3.M.SG 机-ACC.INDF
 「彼は机を作った。」

(4) インフォーマントによると、(4a) (4b) は意味の上ではどちらの動詞にもニュアンスの差は感じられないという。(4a) wadʕada は直接目的語をとる他動詞だが、(4b) ʕaθara は前置詞 ʕala を伴う必要がある。

(5) 【追及】「待つ・探す」

- (5a) yantaðʕiru l-haafilat-a.
 待つ: IPFV.3.M.SG DEF-バス-ACC
 「彼はバスを待っている。」
- (5b) intaðʕartu madʒiiʔ-a-hu.
 待つ: PFV.1.SG 来ること-ACC-彼の.GEN
 「私は彼が来るのを待つ(てい)た。」
- (5c) intaðʕartu ʔan yadʒiiʔa.
 待つ: PFV.1.SG that 来る: SBJV.3.M.SG
 「私は彼が来るのを待つ(てい)た。」
- (5d) yabhaθu ʕan l-kitaab-i.
 探す: IPFV.3.M.SG about DEF-本-GEN
 「彼は本を探す(探している).」

(5) (5a) (5b) は naðʕara「見る」という動詞を派生させた第 VIII 形の形, intaðʕara を用いている。動名詞を直接目的語にとることも、節を目的語にとることもできる。(5d) bahaθa は前置詞 ʕan を伴う必要がある。

(6) 【知識 1】「知っている・わかる」

- (6a) yaʕrifu dʒaiid-an ʔaʕyaaʔ-an muxtalifat-an.
 知っている: IPFV.3.M.SG 良い-ACC.INDF 物事.PL-ACC.INDF 様々な-ACC.INDF
 「彼は色々なことを良く知っている。」
- (6b) huwa ʕalaa diraayat-in dʒaiidat-in.
 彼は in possession of 知識-GEN.INDF 良い-GEN.INDF
 bi-mawaadʕiiʕ-a kaθiirat-in.
 with-対象.PL-GEN.INDF 多くの-GEN.INDF
 「彼はすごく多くの知識を持っている人です(物知りです).」
- (6c) ʔaʕrifu r-radʒul-a.
 知っている: IPFV.1.SG DEF-男-ACC
 「私はその男を知っている。」
- (6d) yafhamu l-ʕarabiiyat-a.
 理解する: IPFV.3.M.SG DEF-アラビア語-ACC
 「彼はアラビア語がわかる。」

(6) (6a) (6c) は ʕarafa「知っている」という動詞を用いている。(6b) は「知識を有している」

といった所有表現を用いた文である。(6d) は *fahima* 「理解する」という動詞を用いている。

(7) 【知識2】「覚えている・忘れる」

(7a) *hal tataðakkaru maa qultu-hu la-ka ?ams-i?*
 Q 覚えている: V.IPFV.2.M.SG REL 言う: PFV.1.SG-it.ACC FOR-貴方.GEN 昨日-ACC
 「私が昨日貴方に言ったことを貴方は覚えていますか。」

(7b) *nasiitu raqm-a haatif-i-hi.*
 忘れる: PFV.1.SG 番号-ACC 電話-GEN-彼.GEN
 「私は彼の電話番号を忘れた。」

(7) (7a) は *ðakara* 「～を覚えている, 思い出す, 記憶する」という他動詞を第 V 形に派生させた *taðakkaru* という形を用いている。(7b) は *nasiya* 「忘れる」という他動詞を用いた文である。

(8) 【感情1】「愛する・好きだ・嫌いだ」

(8a) *?ahabba l-waalid-u 'aulaad-a-hu kaθiir-an.*
 愛する: IV.PFV.3.M.SG DEF-父-NOM こども.PL-ACC-彼.GEN たくさん-ACC.INDF
 「父は子供たちをととても愛した。」

(8b) *?uhibbu t-tuffaah-a.*
 愛する: IPFV.1.SG DEF-リンゴ-ACC
 「私はリンゴが (大) 好きです。」

(8c) *?akrahu haaða r-radzul-a.*
 嫌う: IPFV.1.SG この DEF-男-ACC
 「私はこの男が嫌いだ。」

(8) (8a) (8b) はどちらも *habba* の派生形, 第 IV 形 *?ahabba* を用いた文である。(8c) は *karaha* 「嫌う」という動詞を用いた文でいずれの文も他動詞で直接目的語をとる。

(9) 【感情2】「欲しい・必要だ」

(9a) *?uriidu l-kitaab-a.*
 欲しい: IV.IPFV.1.SG DEF-本-ACC
 「私はその本が欲しい。」

(9b) *yahtaadzu* *?ila n-nuquud-i l-aan-a*
 必要とする: VIII.IPFV.3.M.SG to DEF-お金.PL-GEN DEF-今-ACC
 「彼は今お金を必要としている。」

(9) (9a) は他動詞, 第 IV 形の'araada 「欲しい」を用いた文である。(9b) 第 VIII 形の ihtaadga 前置詞 ?ilaa を伴う必要がある。

(10) 【感情 3】「怒る・怖い (恒常的に)・怖がっている」

(10a) tayd'abu waalidat-ii min ?ax-ii
怒っている: IPFV.3.F.SG 母-私.GEN with 弟-私.GEN

li-?anna-hu yakðibu.

for-that-彼.ACC 嘘をつく: IPFV.3.M.SG

「私の母は弟が嘘をついたことに怒っている。」

(10b) yaxaafu (min) l-kilaab-i.
怖がる: IPFV.3.M.SG (of) DEF-犬.PL-GEN

「彼は犬が怖い。」

(10c) huwa xaa?if-un min al-kalb-i.
彼.NOM 怖がっている.APT-NOM of DEF-犬-GEN

「彼はその犬を怖がっている。」

(10d) yaxfaa l-laah-a.
畏れる: IPFV.3.M.SG DEF-god-ACC

「彼はアッラーを畏れる。」

(10) (10a) は yad'iba 「怒っている・怒る」という動詞を用いた文である。怒っている対象は前置詞 min 'of' を伴って表す。(10c) は恒常的に何かを怖がっていることを表している。前置詞 min 'of' を伴わず他動詞として直接目的語をとることも可能である。(10c) は現在「怖がっている」状態を表す (10b) の動詞 xaafa の能動分詞 xaa?if を用いた文である。(10d) は他動詞で「～を畏れる, 怖がる」という動詞だが, 目的語には抽象的な名詞が多く現れる。

(11) 【関係 1】「似ている・含む」

(11a) yu?bihu ?umma-hu.
似ている: IV.IPFV.3.M.SG 母.ACC-彼.GEN

「彼は自分の母親に似ている。」

(11b) tahtawii miyaah-u l-bahar-i ?ala l-milh-i.
含む: IPFV.3.F.SG 水.PL-NOM DEF-海-GEN on DEF-塩-GEN

「海水には塩が含まれている。」

(11) (11a) は第 IV 形の?ajbaha を用いた文で, 直接目的語をとることができる。(11b) は第 VIII 形の ihtawaa に前置詞 ?ilaa を伴って表す。

(12) 【関係2】「です・なる」

(12a) ?ax-ii tʼabiib-un.
弟-私.GEN 医者-NOM.INDF
「私の弟は医者だ。」

(12b) ?asʰbaha ?ax-ii tʼabiib-an.
なる: IV.PFV.3.M.SG 弟-私.GEN 医者-ACC.INDF
「私の弟は医者になった。」

(12c) sʰaara ?ax-ii tʼabiib-an.
なる: PFV.3.M.SG 弟-私.GEN 医者-ACC.INDF
「私の弟は医者になった。」

(12) (12a) は名詞文と呼ばれる文である。(12b)(12c) はどちらも「…になる」という動詞で、補語の部分は不定の対格で現れている。インフォーマントによれば、文意に (12b)(12c) は違いが認められないという。

(13) 【能力1】「できる」

(13a) yastatʰiiʃu qiyaadat-a s-syyaarat-i.
できる: IPFV.3.M.SG 運転-ACC DEF-車-GEN
「彼は車の運転ができる。」

(13b) yastatʰiiʃu ?an yaquuda s-syyaarat-a.
できる: IPFV.3.M.SG that 運転する: SBJV.3.M.SG DEF-車-ACC
「彼は車の運転ができる。」

(13) (13a)(13b) とともに派生形第 X 形の istatʰaaʃa 「できる」という動詞を用いた文である。(13a) は直接目的語として動名詞をとり、(13b) は節を後続させている。日本語の「泳げる」のような可能動詞の形はない。「…することができる」といった表現で表す。

(14) 【能力2】「上手だ・苦手だ」

(14a) huwa baariʃ-un fi l-hadīθ-i.
彼.NOM 上手い.APT-NOM.INDF in DEF-話-GEN
「彼は話が上手い。」

(14b) huwa yair-u baariʃ-in fi l-hadīθ-i.
彼.NOM ~ない-nom 上手い.APT-GEN .INDF in DEF-話-GEN
「彼は話が下手だ。」

- (14c) laa yastatʿiifū l-dʒary-a bi-surʕat-in.
 NEG できる: X.IPFV.3.M.SG DEF-走ること-ACC with-速さ-GEN.INDF
 「彼は速く走れない。」

(14) 「上手だ・苦手だ」という表現は、(14a)(14b) のように分詞を用いた表現を用いる。もしくは(14c)のように、「…できる・できない」といった表現になる。

(15) 【移動】「到着する・渡る・通る」

- (15a) wasʕala (ʕila) l-madrasat-i.
 到着する: PFV.3.M.SG to DEF-学校-GEN
 「彼は学校に到着した。」

- (15b) ʕabara ʕ-ʕaariʕ-a
 渡る: PFV.3.M.SG DEF-通り-ACC
 「彼はその通りを渡った/通った。」

- (15c) marra bi-ʕ-ʕaariʕ-i.
 通る: PFV.3.M.SG by-DEF-通り-GEN
 「彼はその通りを通った。」

(15) 「到着する」という場合、(15a)のように wasʕala に前置詞 ʕilaa ‘to’を伴って表すこともできるし、直接目的語をとることもできる。インフォーマントによれば、(15b)は「横切って渡った」とも「通った」とも解釈できるという。(15c)marra は前置詞 bi- ‘by’を伴って表す。

(16) 【感覚 1】「空腹だ・喉が渴く」

- (16a) dʒaaʕa.
 空腹だ: PFV.3.M.SG
 「彼は空腹だった。」

- (16b) huwa dʒauʕaan-un.
 彼.NOM 空腹な.APT-NOM.INDF
 「彼は空腹です。」

- (16c) yaʕtiʕū.
 喉が渴いている: IPFV.3.M.SG
 「彼は喉が渴いている。」

- (16d) huwa ʕatʕaan-un.
 彼.NOM 喉が渴いている.APT-NOM.INDF
 「彼は喉が渴いている。」

(16) (16a) (16c) のように、自動詞で状態を表す動詞を用いて表すこともできるが (16b) (16d) のように、分詞を用いて状態を表すのが普通である。

(17) 【感覚 2】「寒い」

- (17a) ?aʃʃuru bi-l-bard-i.
 感じる: IPFV.1.SG with-DEF-寒さ-GEN
 「私は寒い (lit. 寒さを感じている).」
- (17b) ?anaa baarid-un.
 私.NOM 冷たい.APT-NOM.INDF
 「私は冷淡です。」
- (17c) ?al-yaum-a baarid-un.
 DEF-今日-ACC 寒い.APT-NOM.INDF
 「今日は寒いです。」
- (17d) ?al-dʒaww-u baarid-un.
 DEF-大気-ACC 寒い.APT-NOM.INDF
 「空気が寒いです。」

(17) (17b) のような日本語でいう「私は寒い」という構文の構造は、寒さを感じている意味ではなく、冷淡な性質であることを示す名詞文となる。「寒さを感じている」という意味では、(17a) のように、?aʃʃara 「感じる」という動詞に前置詞 bi- を伴って表す。(17c) (17d) のような名詞文は言える。

(18) 【社会的相互行為 1】「助ける」

- (18a) saa'adtu-hu fii haml-i-hi.
 手伝う: III.PFV.1.SG-彼.ACC in 運ぶこと-GEN-それ.GEN
 「私は彼がそれを運ぶのを手伝った。」
- (18b) saa'adtu-hu (fii) ?an yahmila-hu.
 手伝う: III.PFV.1.SG-彼.ACC (in) that 運ぶ: SBJV.3.M.SG-it.ACC
 「私は彼がそれを運ぶのを手伝った。」

(18) (18a) (18b) とともに、派生形第 III 形の saaʃada という動詞に、前置詞 fii'in を伴って表す。(18b) のように、that 節が後続する場合、前置詞を伴わず、直接動詞に後続させて用いることもできる。

(19) 【社会的相互行為 2 (言語行動)】「尋ねる・話す」

(19a) saʔaltu-hu ʕan s-sabab-i.
 質問する: PFV.1.SG-彼.ACC about DEF-理由-GEN
 「私は彼にその理由を尋ねた。」

(19b) ʔaxbartu r-radʒul-a bi-natiidʒat-i l-mubaaraat-i.
 知らせる: IV.PFV.1.SG DEF-男-ACC of-結果-GEN DEF-試合-GEN
 「私はその男に試合の結果を話した (知らせた).」

(19c) ʔaʕlamtu r-radʒul-a bi-natiidʒat-i l-mubaaraat-i.
 知らせる: IV.PFV.1.SG DEF-男-ACC of-結果-GEN DEF-試合-GEN
 「私はその男に試合の結果を話した (知らせた).」

(19d) qultu la-hu ʔaalika.
 言う: PFV.1.SG for-him.GEN それ.ACC
 「私は彼にそれを言った。」

(19) (19a)の saʔala 「質問する」という動詞は、人を直接目的語にとるが、質問の内容は、前置詞 ʕan ‘about’を必要とする。(19b)(19c)ともに派生形第IV形の動詞で「人に知らせる」という使役の動詞である。知らせる内容は、いずれも前置詞 bi- ‘of’を必要とする。(19d)は「言う」という意味の動詞 qaala を用いた文である。前置詞 li- ‘for’+人で「…に対して」と表せる。

(20) 【再帰・相互】「会う」

(20) qaabaltu-hu.
 会う: III.PFV.1.SG-彼.ACC
 「私は彼に会った。」

(20) 派生形第III形の動詞 qaabala 「会う」は直接目的語をとることができる。

参考文献

- Bubeník, Vít. (2008) “Passive,” in Versteegh, Kees. et al. (eds.), *Encyclopedia of Arabic Language And Linguistics: Lat-Pu*, vol. III, pp. 552-558, Leiden: Brill.
- Maalej, Zouhair. (2009) “Valency,” in Versteegh, Kees. et al. (eds.), *Encyclopedia of Arabic Language And Linguistics: Q-Z*, vol. IV, pp. 624-627, Leiden: Brill.
- McCarus, Ernest N. (2008) “Modern Standard Arabic,” in Versteegh, Kees. et al. (eds.), *Encyclopedia of Arabic Language And Linguistics: Lat-Pu*, vol. III, pp. 238-262, Leiden: Brill.

略号一覧

I~X: pattern I~X 派生形第~形	INDF: indefinite 不定	PPT: passive participle 受動分詞
1, 2, 3: 1st,2nd, 3rd person 1, 2, 3 人称	IPFV: imperfective 未完了形	Q: questionmarker 疑問標識
ACC: accusative 対格	JUSS: jussive 短形	REL: relative 関係詞
APT: active participle 能動分詞	M: masculine 男性形	SBJV: 接続形
DEF: definite 定	NEG: negative 否定	SG: singular 単数形
F: feminine 女性形	NOM: nominative 主格	- 形態素境界
GEN: genitive 属格	PFV: perfective 完了形	
	PL: plural 複数形	

転写法

字母	أ	ب	ت	ث	ج	ح	خ	د	ذ	ر	ز	س	ش	ص	ض	ط	ظ	ع	غ	ق	ف
転写	ʔ	b	t	θ	dʒ	h	x	d	ð	r	z	s	ʃ	sˤ	dˤ	tˤ	ðˤ	ʕ	ɣ	f	q
字母	ك	ل	م	ن	ه	و	ي														
転写	k	l	m	n	h	w	y														

母音については、短母音は a, i, u と表記し、長母音の表記については、aa, ii, uu を、二重母音は ai, au を用いることとする。